

第2回 松本市中心市街地再設計検討会議議事録（要約）

日時：令和6年9月30日（月）

会場：松本市中央公民館（Mウイング）

○ 事務局

- ・座長挨拶までを公開とし、その後、報道機関の皆様にはご退席いただく。
- ・会議に先立ち、赤羽座長からご挨拶をいただく。

○ 座長

- ・7月29日に第1回の検討会議を開催し、本日は2回目の会議である。
- ・この2カ月の間に3団体との意見交換を行った。本日は、前回会議に出された意見とともに、各種団体との意見交換で出された意見も踏まえてテーマを整理した。
- ・会議は合計4回の開催を予定。来年3月まで提言を取りまとめていく所存。今回と残り2回で検討を十分にし、指針案を作成していく。

○ 事務局

- ・今回は、第1回会議の意見を基に、検討テーマを整理したので、テーマごとより踏み込んだ議論をいただきたい。
- ・議題の1点目は、第1回会議と各種団体との意見交換を踏まえた検討テーマの整理について、2点目は、検討テーマについての2件となる。

○ 司会

- ・議題の1つ目だが、第1回会議と各種団体との意見交換を踏まえた検討テーマの整理ということで、いくつかポイントを絞った上で議論いただきたい。
- ・テーマの絞り方が適切か、抜けている論点があるかを確認し、概ねいいということになれば、それぞれのテーマを議論していく。資料説明を事務局から願います。

○ 事務局

（資料P1～P4、資料I-2に基づき説明）

○ 司会

- ・今の説明内容は、資料1-3の検討会議の議論のポイントにまとまっている。
- ・今回でまとめにかかるというよりは、むしろ、この中に入りきらなかったり、漏れていることも含めて、まだ、少しだけ拡散したり、この枠に収まりきらないものを出

していただき、第3回会議でもう1回整理し直すと、更に質が上がる。

・テーマの深掘りは次の議題でしていく。まずは、前提として気になるところ、4つの検討テーマに付け加えて議論した方がよいものなどを議論いただきたい。

○ 委員

・検討テーマ①のネーミングだが、地元の人に関わり続けることができるまちなかの整備が、意外と何を意味しているのか分からない。

・テーマの下に書いてある検討の切り口を見るとそうだなと思うが、他のテーマは前回会議で話が出ているので分かるが、テーマ①のネーミング意図をお聞きたい。

○ 事務局

・確かにこのテーマだけ分かりづらいかなと事務局でも感じている。

・3回目に向けてブラッシュアップが必要。その上で意図していることは、単に民間投資とすると、市外の大企業が投資し、地元の関わりがなくなってしまうのではないかという意見があり、単に投資がされれば良いということではなく、地元の人に関わり続けることが必要と言う意味で整理している。

○ 司会

・集積化・高度化の議論が出てきた背景だが、市場の原理では、高さ制限がある中で投資を回収しなければならないとなると、1階から最上階までマンションとして分譲するケースが多くなる。

・その時に高さ制限を少しだけ緩和すれば、場合によっては、1階や2階に商店や公共スペースが入る可能性が出てくるかもしれない。

・駅前のテナントとなると、地元の方が手を挙げるのが難しく、コストパフォーマンスに優れているグローバルチェーンが入ってくる。その結果、全国どこにでもある駅前の風景になってしまうかもしれないということが背景にあって、地元の人が投資できる環境、松本駅を降りた時のまちの個性を一つのテーマとしている。

○ 委員

・今の説明でだいぶ分かったが、地元の人に関わり続けることができるまちづくり、それ自体はまちなか整備と別に整理が必要。交通・ウォークブル、パブリックスペース、緑のテーマも、色々な方が関わりながら進めていくので、地元の人に関わるという点はテーマ①だけではない。

・テーマ①でもう一つあるのが居住の話。テーマ②③④はかなり関連している。①には2つの論点が混在しているので、一緒に議論してもよいが、まちづくりをどう進めるのかというのは、テーマ①だけでなく、②③④にもしっかりと展開すべき。

- ・ まちなか居住は、住まいの形、スタイルそれ自体がすごく大事なテーマ。
- ・ テーマ①から④を通じて、松本らしいまちなかとは何かと言うこと。まちなかを何とかしないといけないということだが、単にパブリックスペースや緑ではなく、松本らしいパブリックスペースとは何か、松本らしい緑とは何か、松本らしいスタイルとは何かというのを基本において、議論するということだと理解した。

○ 司会

- ・ 居住する、まちなかに住むということを考えると、既にある住宅や居住環境は、比較的、中核エリアの外ではあるが、中心市街地の中ではあるというエリアにある。
- ・ 中核エリアを再設計する中で、ここに人は住むという形になるのか、どういう形であれば住めるのかみたいなことが、テーマ①のところでは議論になる。

○ 委員

- ・ 資料Ⅰ-2の整理シートを見ると、危険とか、安心・安全というワードが出てくる。
- ・ テーマ②③④は、市民の皆さんが課題に感じている項目だと思うが、テーマ①は、なぜ1度整備された都市を50年で再設計するのか、頭の整理がいると思う。
- ・ この間の社会の変化、意識の変化、求めるレベルの変化に対応した安全・安心というものが、住んでいる人、訪れる人、働いている人に等しく提供されるべきという考えが、根底にはあるのではないか。
- ・ そのような点を踏まえて、テーマ設定をもう少しシャープにしていいただけると、より今後の議論がしやすい。

○ 司会

テーマ①が議論になっているので、まちなか整備の部分、この後に資料を用意している。事務局から説明いただきたい。

○ 事務局

(資料P5～P42に基づき説明)

○ 山本 座長代理

- ・ 一つ一つのテーマを検討し、最後にもう1回全部集めてピースをはめていくと、どういうことになるのかというところまで、今日できればいい。
- ・ 土台になる考え方は、まちなか居住やテーマ①にも関わるし、集積化・高度化、新たな投資環境にも関わるが、重要と思うポイント、考え方があれば、お願いしたい。

○ 委員

- ・ 中核エリア、駅前やお城周辺に人が住む場合、やはり利便性が必要になってくる

- ・建物の高度化はあるが、マンションも1階から15階、20階など、様々なマンションがあって、そこに人が暮らしたくなる、住みたくなるまちでない。
- ・歩いていて賑わいを生み出すものが低層階にあれば、高度化を規制するべきものではないし、人が住むことを考えると、利便性とセットで考えていく必要がある。

○ 司会

- ・今の話は、建物の高さが緩和されることによって、低層階の活用の可能性が出てくるのではないかということ。
- ・これは、色々な方と話していても賛否が分かれる論点。難しい論点だがエリアでという考え方もあれば、低層階の公共利用などとセットで、ピンポイントで建物の規制を外していくという考え方もある。その辺の議論も重要なポイント。

○ 委員

- ・マンションが多く建っているが、入居する人たちはどのような人なのか。東京から移ってくる人は、中心市街地ではなく郊外に住みたいのではないか。
- ・松本市にも、お金持ちが住むような住宅地、皆があそこに住みたい、家をつくりたいというところがあってもいい。
- ・今後は人口が減っていく。お店が閉まるのは人口が減っているから。拡大するよりも、地元の人を楽しめるまちをどうやって作っていくかの方が先だと思う。
- ・松本が特別なのは湧き水が多いところ。水を意識するとそこに豊かさが出てくる。
- ・松本が寂しいのは並木通りが少ない。並木通りをきちんと整備することによって、住んでいる人たちが歩きたくなる。現に中町は歩いてみたくなる。日常の生活で歩きたくなる通りがあるといい。
- ・他にない松本の魅力の一つは女鳥羽川。川辺をもっと市民が使えるように、京都で言ったら川床。まちにソフト的な要素ことを入れ込むことで、それが魅力になる。
- ・大事なのは松本のまちの土台。女鳥羽川があるとか、どこでも湧き水が出るとか、井戸水で入れたコーヒーが美味しいとか、こういうことができるということが、まちの価値だと思う。
- ・3団体から出された意見が資料としてよく整理されている。団体は違っても類似する意見があってその中に答えがある。

○ 委員

- ・中町という話が出た。40年前に駅前が開発されたときに中町は取り残された。その時に古い町並みを残していこうと考えて、蔵のあるまちを大切にしてきた。
- ・40年前の先人たちが、中町だけ立派なビルが立たないとか、アーケードができないという思いをしながらまちづくりをしてきた。

- ・他と同じである必要はないのでは。他との違いを大事に、城下町を大事にして、中町の先人たちはまちを作ってきた。
- ・駅を降りて山が見える環境が松本の魅力だと思う。高さ制限を緩和することで、大きなビルが建つことを私は望んでいない。
- ・東京から移住してくる人もいるが、マンションに住んでいるのはお年寄りの方。駅が近くて、公共交通、病院なども近いから住むという方が多い。
- ・松本らしさを一番に考えてほしい。水、城下町が松本の魅力。市街地に川があって、三の丸エリアビジョンの活動で綺麗になり、最近はお祭りで川辺に降りている。
- ・川辺で過ごしている光景を目にすると、皆はこれを望んでいるのではと思う。必ずしも新しいものではなく、東京にあるものではなく、松本にしかない雰囲気というものがあってほしい。
- ・市街地には学校があるので電車を通う子も多い。中高生がすごいと思うものは派手な商業施設かもしれないが、意外とみんなで話せるスペース、勉強できるスペースが欲しいという話を子どもとする。親としてもそういう場所があると安心感がある。

○ 委員

- ・様々な地方都市を見ていると、中心市街地が心配だという状況になっている。
- ・再投資する時に規制を緩和すると、大きなものができるということになるが、単純に高さだけでなく、もっと色々なことを組み合わせて有効に使うことが重要。
- ・高さ規制を緩和することで民間資本を呼び込めるかについては疑問があって、他の都市で確かにそういう形で民間投資を呼び込んだところはあるが、それが果たして良い投資だったのかということについては考える必要がある。
- ・駅前にマンションは建ったけれど、その人たちは、周りのまちよりも何かの価値を見出して暮らしているというわけではない場合、数年後、それが負債という形でその都市に影響してくる。
- ・持続可能ではない形、短期的な回収を考える投資はあるかもしれないが。都市づくりというのは、もう少し長期的に考えながらやっていかないといけない。1回まちを壊してしまうと、今まで培ってきた大事な歴史や文化みたいなものを失ってしまうとすると、もっと慎重になる必要がある。
- ・松本は城下町を中心に豊かな文化がある。これは他の都市がすぐにはまねできないもの。そこを前面に打ち出すような、新しい住まい方とか、住まいの形とか、暮らしの形をむしろ積極的に打ち出していくようなポジションにあると思う。
- ・単に投資を呼び込むのではなくて、松本の城下町なり、文化をしっかりと尊重してくれるような投資を呼び込むことが重要。そのためには、松本がこういうまちを目指すという、しっかりとしたビジョンを示すことが必要。

・松本の人たち、あるいは松本市がどういう場所を目指しているのか、それがあると民間企業は安心して投資する、大丈夫だろうとやってくる。必ずしも合理化や規制緩和が手段でなくてもよいのではないか。

・城下町での暮らし方、あるいは自然と共生する暮らし方みたいなものが提示できれば。そのアイデアを考えた方がいい。

○ 司会

・すごくいい形でテーマ②③④を繋いでいただいた。

・松本はこういうまちだね、この方向に進んだ方がいいという提言を市長にするための検討会議ではあるが、しっかりとした方向性が提言の中で見えてくると、従来から議論になっている、投資のあり方や民間の関わり方が整理されてくと思う。

・テーマ②は、交通・ウォークブルを含めた人の移動に関することだが、色々な人と話していても、中核エリアには車で行くが、車を置くところがない、駐車場代が高い、これらが不便だから、イオンモールに停めてから歩くと話す方が多い。

・交通については、来てほしいと思う人たちも含めて、かなり広い範囲で交通の動線を描かないといけなくて、このエリアの中だけで議論しても難しいテーマ。

○ 委員

・リターンとして確固たるものがないと、恐らく民間企業は簡単には投資をしない。

・交通という観点で言えば、人口が減少し、これから爆発的に人口が増えるということは想定しにくいので、昔のような鉄道の整備とか、公共交通の整備に対するお金のかけ方というのは、トーンダウンせざるを得ない。

・そうした中、中核エリアに人が少なくなっているとか、中核エリアに投資が起きないという現状を考えると、投資へのリターンが見込める環境なのかという点で、根本的に何かが欠けているのではないか。

・住む人にとって危ないとか、安心・安全というものが担保されないという中核エリアになってしまっているのが問題なのだとすると、そこを議論して、公共施設も含めて、どうやったらその課題を解決する方策に繋がれるかを考えて、行政の方でまちづくりを誘導するということが必要になってくる。

・松本市においては、規制を緩和すればものが進むということではないと思うので、土地利用をどうするかということも含め、今のままいくのを基本とするのか、何か大ナタを振るって、大胆に変えるのか、そこが大きな別れ道になるのかなと思う。

○ 司会

・まちの安心・安全という話は、第1回会議の時にも議論があった。

・各種団体との意見交換では、安心できないから、大きなショッピングモールのように

な安全な場所に、小さなお子さんやお年寄りの方は行きがちという話もあった。

・大ナタを振るうという表現もあったが、ウォーカブルという方向性で、具体的に、何をどこまで想定するのか、どこまで踏み込むのか、どこまで覚悟を決めるのかということがあって、ウォーカブルという言葉だけでは整理できないテーマなのかなという気がしている。

○ 委員

・道路事情については城下町特有のものがあって、一方通行が多く、週末の渋滞については、もしかしたら駐車場もそうだが、市街地の道路のキャパに対して、ある時期については流入量が多すぎるのかなというところがある。

・この点をどうするのかは非常に重要で、先程も覚悟という話があったが、まちづくりを進めると、行政が覚悟を持って本当にどこかの道は車を通さない、代わりに他の道に誘導するとか、その辺を含めて本当に 30 年、50 年かけてする気があるのか。

・松本をイメージさせる中心市街地にする覚悟はあるのかというのが重要で、それがないと中途半端なものになってしまうのではないか。

・人口が減るので、今の道路のキャパでも将来的にはよいという考え方もあるが、そこは重要な点。観光客には駅の西側に大きな駐車場があって、週末は市街地に車を入れない、そういったことをすると、住んでいる人の利便性が損なわれる可能性があるが、そのバランスをとりながら、両者が共存共栄しないと、片方だけでは発展しないし、まちづくりができない。

・これは重要なテーマで、今の子どもたちや、未来のために良かったと思われるまちづくりに繋がるテーマ。期間は短いが、この中で考えられれば、すごく意味がある。

○ 司会

・今のお話の中で、例えば週末に流入量が多すぎるということは確かにそうで。本当に信号が何回変わってもなかなか行けないというのはある。

・その中で、もう少し交通の流れというものにコントロールがかけられるのであれば、何か考えられることが増えてくるのか、そういう感覚がある。

○ 委員

・東京に行った方が私たちも歩く。松本にいと歩かない。

・松本駅から松本城の間にある本町通り、大名町通りを並木通りにしたり、歩いて楽しくなるような工夫が必要。ベンチを置いて、そこに木があれば休めるとか、歩いて楽しい道を作っていく。アイデアを出していけば、車に乗らなくても歩ける人は松本駅から松本城までは歩く、そのような提言をしたらどうかと。

・松本はどこからでも水が出る。途中で水が飲めるなどの特徴づけをして、松本駅か

ら降りて公園通り、大名町通りと続く道が楽しい、その楽しみを作れば、子どもから年配の方も、ゆっくり通れるのなら、歩きたいということになる。

・アメリカでは速度制御で、安心・安全をカバーしている。本当に行政は大変で、周りからの締め付けもあるかもしれないが、そういったことを松本でもやってみて、まちがいいねと言われるアイデアを出して、歩く道を作った方がよい。

・歩きながら物を食べられる道があると外国の方は喜ぶ。その辺も踏まえて、他とは違ったまちをつくってはどうか。

○ 司会

・社会課題としては、健康とかヘルスケアの話は必ず出てくる。

・地方の人ほど歩く量が少なく、東京の人の方が倍以上歩いている。

・人と対話をする、人に会う、人と人の関係性ができることが、恐らく心身の健康に繋がっていて、単純に歩いて楽しむだけでなく、社会課題のことも考えても松本の中核エリアを再設計するイメージが湧いてきた。

○ 委員

・地元の方は、朝歩いて色々な会議をして解散みたいな、名前も知らないけれど、毎日会っているという話はよく聞く。

・もっと安全な道になれば、タウンスニーカーが細かく回っているのもっと利用するでしょうし、そこだけで完結しない交通のあり方というのが大事。広い面で松本の魅力を知ってもらおう動線の作り方が重要。

・お城のプロジェクトマッピングは、地元の人が見に行っているが、車を停めてまちなかを歩かずに帰ってしまう。フラッグを掲げるだけでなく、夜にお店を開くとか、一貫性というか一体感を持たせるような取組みが必要。

○ 司会

・戦略的不便さというのをあえてデザインするのは面白いかも知れない。

○ 委員

・旧城下町はもともと人が歩いていた場所だから、少し工夫さえすれば歩ける、歩いて楽しいまちになる。

・そういう意味で課題なのは、松本駅と松本駅前公園のあたり。区画整理したあがたの森の通り南側が、このままいくとあまり歩きたくない場所になる。松本駅周辺は観光だけでなく暮らしの場所でもあるとすれば、街区をどう再設計していくかが大事。

・いくつか方法はある。例えば開発する際に、街区を大きくすることはあるが、むしろ街区を小さくする。街区を横断するような、ちょっとした路地などを設けるような

ルールを作って開発していけば、細かい街区ができていく。

・道路は混雑して渋滞もあるが、一本中に入った道は意外と車通りが少ない場所があるので、そこは思い切って歩行者専用にするなどメリハリをつける。そこは具体的に再設計した方がいいのではないかな。

・駐車場は、確かに中心市街地に来るための受け皿としては必要だが、あの土地利用をコントロールしないと、結局、駐車場があると歩行者空間ができない、そうすると歩くことの賑わい、楽しさが生まれないため、道だけでなく、道と土地利用を連動してコントロールする。それにはビジョンを作った上で、しっかりとガイドラインをつくるべき。

・そういうことで、自分たちの居場所ができてくるという仕組みをしっかりと整理してあげることが、すごく大事。

○ 司会

・あがたの森通りの南側、駅前記念公園は 35 ページに資料がある。

・松本駅から松本城の繋ぎ目の位置にパルコがあって、その前に花時計公園がある。

この辺りをどう再設計していくか、住んでいる方がこういうまちですと訪れる方に言う場合にも、非常に象徴的な場所かなと思う。

○ 委員

・松本で東京と同じようなまちを作っても、それは住んでいる方にも訪れる方にも恐らく受けないのではないかな。

・そういう意味では、やはり松本らしいまちづくりをしていく。

・ただ、課題は、安心・安全だったり、ウォークアブルであったり、賑わい空間であったり、ゆっくりできる場所を生み出すための土地が足りない。どうやってその土地を生み出すのか、これが東京の発想だと、道路を重層化する、駅前広場を重層化することになるが、本当にそれが松本のまちでやるべきことなのか。そう考えていくと、土地の使い方を、道路や公園も含めて変えていかないと、他の都市と同じまちなみになってしまう。

・そこで、規制緩和ではなくて、むしろ規制強化の方法があるのかもしれない。歩く軸線を作って、そこにトランジットモータリゼーション的な公共交通も一緒に走る、ゆっくりしたスピードで移動する空間をつくる、そのような解決の方策もあるのではないかな。

・そのようなことも含めて、住んでいる方も訪れる方にとっても双方にとっていいまちにしていく。実際に人が増えていけば、投資は何かしら起きてくるということになる。その好循環をどうやって作っていくかに尽きるような気がしている。

・どうやったら安心できるまちになるのか、どのような空間をしつらえればいいのかというところが、もう少しイメージが膨らむといい。まちづくりの中で交通が担うべ

きところがもう少し明快になると、まちは作りやすい。

○ 司会

- ・その他に何か意見があればお願いしたい。

○ 委員

- ・三の丸エリアビジョンの取組みが進められている。
- ・松本のまちなかにおいて人と車との共存をどのように図るのか。いきなり車を入れないということは簡単にはできないが、基本的には車をあまり入れない、できるだけ減速していただくとなると、中心市街地がどうしても混雑する。
- ・そこを何とかできないのかと思うが、三の丸エリアビジョンでは車との共存をどのように考えているのか。

○ アドバイザー

- ・三の丸エリアビジョンは令和3年に検討を行った内容。ビジョンには交通のことも書いていて、今日の資料だと23ページ、エリアビジョンの図を下敷きに交通のことを書いていただいている。
- ・正直、幹線道路をもう少し強化しないと、今このまちなかに流入してくる車を捌くことは難しい。交通の専門家もそこは難しいだろうと。やるとなると、道路拡幅を伴う話になるので、時間軸がビジョンで扱える時間軸ではなさそうだということがあった。
- ・駐車場も、行政で全ての駐車場をコントロールすることは難しくて、フリンジパーキングみたいなことは構想としては描けても、実際には民間のコインパーキングが多いので、その権利を制限してまで1カ所に誘導するのは難しい。
- ・そのあたりは計画としては持っておくべきだがやり切るのは難しいので、三の丸エリアビジョンの中では、まちに出る動機を作ろうよということを主軸にした。
- ・ビジョンができて、プラットフォームに関わっている皆さんは、ほとんどが地元の事業者。むしろ外からもう少し新しいプレイヤーの方が入ってきてもいいよねと言っているぐらい、地元の方がやっている。
- ・松本らしさは、まちなかの都市河川で降りられる場所があるということ。大名町通りはハード整備の検討が進んでいて、開智小学校を結ぶ通りもトランジットモールの社会実験をしている。
- ・積極的に道路空間を活用すれば、これだけ素敵なことができるということをこの2年間取り組んできた。そうすると、住んでいる方が実感を持って、このシーンが見られるなら少し不便でもいいかもしれないという理解を広げているフェーズ。

○ 委員

・急激にはできなくても、段階的に進めて、いつかはここに向かうというものがきちんと描けていればいい。松本市ならできるのではないかなと思う。

○ 委員

・中町でもトランジットモールに取り組んでいるが、これを本町や駅前通りで実践するとなると大変だとは思っているものの、実際に、そのぐらいしないとだめなのかなというところもある。することで人がゆっくりと歩いてくれる。本当に、皆さんが自由に歩ける空間というのは、いい空間だなと思う。

○ 司会

・植栽を入れて周りに商店が入ると、こんなに豊かな空間を作り出すということが、中核エリアのどこかで集中的に可視化されると、他でやる時のモデルになる。

・エリアを絞って作ってみるということは、市民の理解や納得感につながる。頭では理解していても、自分の目で見て体験すると、色々な意味での理解が進み、議論を誘発することで更に良くなっていくのではないかな。

・公園だけではなく、周辺の道や街区などを全部含めて、テーマ②のウォークブルを掛け合わせて可視化できるようなものがあると意義がある。

・中核エリア全体に広げていく時に、例えばあの場所みたいにとった時に、市民が共通でイメージできる場所があることに意味がある。

・グリーンと水は、恐らくどの都市でもやりたいと思っているができない松本の魅力。飲める水が至る所にあるとか、市街地の真ん中に川が流れているとか、グリーンと水も、このエリアを考える上では重要なキーワード。

○ 委員

・パブリックスペースは公共空間のことだが、重要なのは空間ではなくて、パブリックライフ。

・たくさんの人で賑わうだけではなく、たまたま街角で会った2人が会話を交わしている、川辺に1人で佇んでいる、いかにたくさんの種類のパブリックライフがそのまちにあるかというのが本当の豊かさ。

・中核エリアが何を指すのかと言われればパブリックライフ、つまり、まちを使って1人1人の生活や人生が豊かになること。

・普段の生活も幸せかもしれないが、でも、まちに出るとそれ以上の楽しみがある。その楽しみ方が1人1人違う。恐らく中心市街地はそういう場所。まちにどのようなパブリックライフがあるのかをしっかりと見て、どのようにしたら増やせるのか、ど

のようなやり方をしたらもっと育てられるのかということが大事。

○ 司会

・パブリックライフの多様性みたいなものは、恐らく郊外では持ちにくくて、中心市街地でないと出せないタイプのバリエーションが恐らくある。

・それを近くに住んで享受したいと思えば、それがまちなかに住む理由にもなるのかもしれない。パブリックライフの多様なシーンをデザインする感じ。住んでいる方がまちなかで談笑する姿を見るだけで、いいまちだろうなと思う。

・パブリックライフの多様なシーンをひいて見ると、賑わっている、活気があるというふうに見える。多様なシーンやシーンを生み出す人がいるのであれば、こういう商売が成り立つ、投資をしても十分回収できるということになるのかもしれない。

・議論の順番として、どうやって賑わいを生み出すかというよりは、賑わいは結果であって、その周りにある豊かさ、多様性、住んでいる人が、まちを使いながら豊かになり、健康にもなる、そのような松本の中核エリアの在り方は、恐らく委員の中でも基本的に共有できる部分だと思う。

○ 委員

・公共施設で圧倒的に足りないのは、そこを中心になって動かす人だと思っている。

・作りましたので、後は皆さんで何とかしてくださいという投資が多く続いてしまうと、施設のポテンシャルを最大化できない。

・学習スペースや子どもの居場所も含めて、そこにいる人が繋ぎ役になって、人と人をつなげる空間づくりが大事。ハードの投資だけではなく、ソフト面も並行してやっていかなければならない。

・商売をしていると、なかなか表だって会う場所がないと感じる。もう一度、住んでいる人と訪れる人が交流できる、両者がしっかり使える場所があるべきと感じる。

・防災の視点についても、考えながらやっていかなければと思う。

○ 司会

・座長と色々お話をする中で、平時はいいが、ある種有事というか何かが起きたときに、まちとして形が崩れてしまわないような、ある種の粘り強さとか足腰の強さが必要で。再設計をするに当たって必要な視点。

・今回の会議を受けて、意識してまちなかを色々な時間帯で歩いているが、グリーンや植栽はあるが、手入れが行き届いていないところがあって。お話を聞くと、元々は町内会の方が手入れをしていたが、住んでいる方がどんどんいなくなり、高齢化し、組織の維持自体が難しくなっている。

・何かを作ることはできるかもしれないが、関わり続けてメンテナンスし、更に発展

させ続けるということになると、テーマ①にある、ある程度そこに住んでいる人たちがいないとできないのでは。

・まちなかで何かやろうということになると、どういう人が関わり続けられるのか、その仕組みも合わせてやらないといけない。

○ 委員

・長野県の中で、松本市が一番、文化芸術、文化度が高いと思っているが、そうした時に国際会議などの需要があって、コンベンションホールと簡単に言うてはいけませんが、そのような需要が松本ならあるのではと思う。

・実際のところ、国際会議で要人が宿泊するホテルが松本は、どうなのかという点があって、駅前にコンベンションセンターなどがあってもいいのか、需要があるのかどうか。

○ 委員

・ホテルはかなり充実してきたが、会議などができる大きな会場がない。

・小さな単位でのグループワーク、発表ができる会場、会議後のパーティーなどを開催できる会場については課題があり、必要性はある。ただ、作りたいといって簡単に作れるものではない。今後どのようにするかは、多くの人のコンセンサスが必要。

○ 委員

・可能性があるのなら、提言に書いておく必要がある。民間企業にとっても可能性があるのかどうかというところが分かれば。

・松本の顔である駅前がどうなるのかをしっかりと議論しながらも、そのようなコンベンション機能も受け入れられるということが、あってもいいのではないか。

・駅前にはバスターミナルもある。再設計に当たっては、中心に据えるものがあってもいい。

○ 委員

・ホテルは増えたが、国際会議を呼ぶぐらいのものとなると少ない。ただ、民間でとなるとなかなか出てこない、

・ただ、そういうものを圧倒的に魅力あるものとして作れば、冬シーズンも人が来るかもしれない。

○ 司会

・松本に住んでみて分かったことは、冬の松本は本当にいい。外を歩く時のきりっとした感じと山の綺麗さが抜群に良い。道があまり凍らないのでジョギングもできる。

・東京から数時間という意味では、すごいポテンシャルのあるまち。ただ、朝の商売は意外と少ない。24 時間 365 日、変化がある松本の魅力を上手く伝えられるような、その中心の中核エリアという観点もある。

・屋外、室内のパブリックスペースとしては、教育、子ども、次の世代の人たちなど、そこに多様な世代が交わる仕掛けという意味では、コンベンション機能もそうかもしれないし、教育的な機能などは、このエリアにあった方がいいかもしれない。

・医療に関しては、いくつか大きな病院があるが、病気を治すというよりは、むしろ予防医療的な機能が、松本市というまちの中心にあってもいい。

・細かいところはこれから出てくると思うが、そういう細かいアイデアが乗せられるような大きな枠、進む道を示すのが、この会議の大きな役目なのだろうなど。土地利用や駅前にしても、民間だけではなくて市の関与も必要になってくる。

○ 委員

・前回会議でも言ったが、雨の日でもイベントなどができる室内空間で、上がコンベンションで会議もできるような施設だったら、市民も観光客も活用できると思う。

○ 司会

・最後に何か言い残したことがないようにということをお願いしたい。

○ 委員

・資料 35 ページの公園の写真を見て、花時計公園が黒いゴムマットで覆われているのがすごく残念。グリーンインフラの会議でも、全て芝生にできたらいいという話もしたが、この空間を緑あふれる空間にすれば、まちの雰囲気もすごく変わる。

・ゲーム性のあるスポーツなど体を動かすことが、まちなかだと制限されているところがあるので、意図的にゾーニングするのも面白い。

○ 司会

・松本らしさというのがキーワードで出てきている。

・コンサルの方と話をすると、戦略を立てる理由は、戦略を立てることで、何をやるかということよりも、何をやらないかがはっきりするからと言っていた。

・色々なアイデアを進めるにしても、少なくとも、他のまちでもできることはやらないということなのかもしれない。

・最後に座長から一言お願いします。

○ 座長

・大変有意義な議論、まさかここまで話が広がるとは想像していなかった。

・第1回会議でも話したが、市民の皆さんが自慢できるまちでなければ、外からも人は来ない、自分たちが嫌っているまちに、どうして人が集まるのか。体裁だけ整えても結果はいい方向には進まない。

・松本のまちが我々の考え次第で、がらっと変わる。

・子どもたち、孫の代まで喜んでもらえるようなまちになればいい。

・松本のまちの良さを、井の中の蛙で気がつかないのならば、気づいてもらうことも必要だし、この会議がそのきっかけになればと考えている。

・第3回会議もある。様々なご意見を頂戴し、引き続きご尽力を賜りたいというふうに思う。よろしく願いたい。

○ 司会

事務局から何かあれば願いたい。

○ 事務局

・市民の意見を聞くワークショップを10月、11月に予定している。

・先ほどご紹介したLINEの意見募集もそうだが、普通に意見を聞くと、どうしてもあれが欲しい、これが欲しいという形になりがち。今日出たキーワードなどを中心に意見が拾えるようにしたい。

・いずれにしても結果は、第3回会議までにまとめていきたい。

○ 司会

・これで本日の会議の議題を全て終了した。

・こういうことを思った、こういう資料はあるのかといいことがあれば、遠慮せずに事務局に言っていただければ 可能な限り揃えて、第3回会議で議論できれば。

・議事が終了したので、事務局にお返りする。

○ 事務局

・長時間の議論をいただき、ありがとうございました。

・第3回会議では、指針案というところを見据えた議論をいただきたい。

・これをもって、第2回松本市中心市街地再設計検討会議を閉会とする。本当にありがとうございました。